

熊野町立地適正化計画の基本的な方針等

1. 報告事項
2. 第2回策定委員会の意見と対応



～ 筆にのせて 未来を描く まちづくり ～

1. 報告事項

- ① 住民意見聴取会(ワークショップ)
- ② 計画策定に係る庁内関係各課ヒアリング
- ③ 熊野町立地適正化計画 職員ワークショップ

第2回 熊野町立地適正化計画策定委員会開催以降の取組

開催		テーマ
令和4年度	第1回委員会 [10月7日開催]	「熊野町立地適正化計画の策定について」 1. コンパクト・プラス・ネットワークについて 2. 立地適正化計画の策定について
	第2回委員会 [1月10日開催]	「立地適正化計画の検討について」 1. アンケート調査の結果について 2. 課題分析・課題抽出 2-1：都市特性に関する分析 2-2：熊野町が抱える課題の分析 2-3：解決すべき課題の抽出
	～	① 住民意見聴取会 …令和5年2月25日開催 ② 計画策定に係る庁内関係各課ヒアリング …令和5年2月 8日開催 ～2月 9日開催※ ③ 熊野町立地適正化計画 職員ワークショップ …令和5年3月23日開催
令和5年度	第3回委員会 [5月9日開催]	「熊野町立地適正化計画の基本的な方針等」 1. 都市づくりの方針 2. 立地の適正化に関する基本的な方針
	第4回委員会	・計画骨子案 (誘導施設・区域・施策等)
	第5回委員会	・立地適正化計画(素案)について
	第6回委員会	・パブリックコメント等の結果報告 ・立地適正化計画最終案の確認

※生活環境課との意見交換については令和4年12月6日

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施

令和5年2月25日に住民意見聴取会を実施しました。

住民意見聴取会では、地域の方との対話を通じて、それぞれの地域の特性や詳細なまちづくりの課題を把握するとともに、住民の方が主体となって将来の方向性についての検討を行いました。

開催概要

<p>目的</p>	<p>これまで検討を進めてきたまちづくりに関する課題の抽出・整理に加えて、熊野町立地適正化計画で定める事項の検討を進める上で、その判断材料となる町内3地域（東部地域・中央地域・西部地域）の地域特性や各地域が抱える課題等を、地域の方との対話を通じて、詳細に把握していくことを目的とする。</p> <p>また、各地域のテーマを議題とする意見交換（ワークショップ形式）を実施し、各地域で考える将来像の実現に向けた今後のまちづくりのアイデア等も伺いながら、各地域において取り組むべき課題（まちづくりのターゲット）を明確化していくことも目的とする。</p>
<p>開催日時 場所</p>	<p>令和5年2月25日（土曜日） 西部地域：9時30分～11時30分 （熊野西防災交流センター） 東部地域：13時00分～15時00分 （熊野東防災交流センター） 中央地域：16時00分～18時00分 （熊野中央防災交流センター）</p>
<p>参加者</p>	<p>西部地域（川角，平谷，貴船，石神，神田，柿迫，東山）：17名 東部地域（初神，新宮）：7名 中央地域（呉地，出来庭，中溝，萩原，城之堀）：14名</p>

ワークショップの様子



報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [東部地域]

■主な意見等 (東部地域)

	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ○きれいな水, おいしいお米, 自然豊かで空気がきれい ○田園風景(田・畑)や第二小学校, 榊森神社・城山など, 自然環境, 昔からあるものが多い ○農業が盛んで, 地域資源となる農産物がある ○長年住んでいる方が多い(顔見知り) ○地域のコミュニティを支えるNPO法人がある(地域の宝) ○熊野東防災交流センター(料理教室等, 色々なプログラムがある) ○おでかけ号(助かる)
	地域特性 問題 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化による農業の継続困難, 田んぼの担い手・後継者不足→荒廃地・太陽光発電の増加 ○町外の病院へのアクセス(広電熊野営業所までの交通手段が不便) ○おでかけ号は便利だが, 乗る人が限定されているため改善必要(満員で乗れない) ○バス停までの距離が遠い集落がある ○運転免許返納後の日常的な買い物(萩原地区までのアクセス手段) ○緊急車両が入れない4m未満の道路がある ○診療所等が身近な場所がない ○若者の減少による地域の持続性の低下, 働く場所がない ○新しいアパート等に住んでいる方々とのコミュニティの問題 ○新宮向田団地の高齢化(団塊の世代が多く, 子どもが少ない) ○若者の減少による消防団員数の減少(30代~40代の人材の確保困難) ○借り手のない空き家の問題 ○土砂災害の危険性が高い場所が多い ○新宮は高低差があり, 新たな開発が難しい ○災害により, 三谷川がきれいな川でなくなった

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [東部地域]

人口流出・高齢化による農地の荒廃化, 田園風景の保全, 医療資源等の不足, 公共交通環境(高齢者等の移動の制約), 地域の持続性の低下⇒活性化の必要性(広域交通アクセスの向上), 防災リスクの存在, 団地の高齢化と一人世帯化, 緊急車両の進入困難な道路の存在 等

■主な意見等(東部地域)

提案・要望等	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○今あるいいもの(地域の資源)を次の世代に伝えていきたい ○ふれあい館, 地域のNPOとの連携強化(将来を見据えて, 地域を盛り上げる) ○農業をしたい人を外から呼び込み地域を活性化→今の環境を守るために農地を活用。 ○東広島バイパス方面や海田町との繋がり強化(利便性の向上・災害時の安全安心) →10年・20年先を見据えた夢のある計画に ○地域を維持していくためにも, 働く場所が必要 ○防災センターや深原地区公園を中心とした地域の拠点の整備(シルバー人材を活用)
	提案・要望	<ul style="list-style-type: none"> ○(仮)新峠線の整備(海田町に抜ける道路) →地域のポテンシャルの向上, 災害時のリダンダンシーの確保 ○緊急車両侵入困難箇所の解消 ○路線バスを廃止→おでかけ号のような乗りやすいコミュニティ交通の充実(増便) ○深原地区工業地への産業の呼び込み→地区外からの住民の呼び込み→活性化 (東部地域に移住する若者への補助金等⇒安全な場所への新しい住宅の誘導) ○東部地域に1箇所は内科や歯科が必要 ○農業が好きな方に農地や農業機具を貸せる仕組み(あわせて農業も教えてあげる) ⇒地域資源を守る(ジビエ, いちご, ぶどう, 長ネギ), 綺麗な三谷川の復活 ○健康ポイントの充実(高齢者が地域づくりに参画するためのメリット)

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [中央地域]

■主な意見等 (中央地域)

	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ○ほどよい都会感, ほどよい田舎感 (自然環境が豊かで, 子育て環境として良い) ○小さなまちとしてのまとまり感 (充実したコミュニティがあり, 安心して子育てできる) ○商店や診療所等も身近な場所にあり, 今は便利。(スーパー・ドラッグストア等は充実) ○車があれば便利に暮らせる (熊野道路の無料化→町外の病院へもアクセスしやすい)
	地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ○狭隘道路が多い (狭くて危険, 公共交通も入れない) ○旧道へ迂回する通過交通の流入が多くて危険, 北部農道はスピードを出す車が多い ○県道 (矢野安浦線) に接続する縦方向の生活道路の不足 ○熊野道路の無料化に伴う交通量の増加 (渋滞) ○アップダウンが多く, 自転車が利用しにくい, ガソリン代等もかかる
	問題・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通ネットワークが不便 (バス停までの距離遠い, 通学: 矢野駅へのアクセスが課題) ○公共交通では広島市内に出にくい (車では行きやすい⇔公共交通を利用しない) ○おでかけ号は利用しにくい (利用者が限定, 日常的な利用者に遠慮して乗れない)
		<ul style="list-style-type: none"> ○車がなければ不便 (運転免許返納後の生活懸念, 将来の生活サービスの存続性も懸念) ○子どもが喜ぶ飲食店 (ファーストフード等) がない ○入院できる病院がない
		<ul style="list-style-type: none"> ○公園が少ない (ボール遊びの公園, 子どもが1人で遊べる公園, 散歩でいける身近な公園) ○熊高生など, 高校生が遊べる場所がない。(遊戯・娯楽)
		<ul style="list-style-type: none"> ○道路が狭い所では, 空き家等が発生
		<ul style="list-style-type: none"> ○若い人が町内会や子供会などに入会しない ○若年層の町外への流出
		<ul style="list-style-type: none"> ○土砂災害等のリスク, 避難所の安全性の問題, 高齢者等の避難場所へのアクセスの問題 ○非常時 (大雪時など) の熊野トンネルの通行止め (町外へ出れなくなる)

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [中央地域]

狭隘道路等の問題, 自転車等の利用環境, 地域の持続性や生活サービスの充実(飲食店, 医療施設, 若者向け施設), 自家用車への依存・高齢者の交通問題, 公園の不足, 災害対策(避難場所の問題), 地域コミュニティの問題, 観光振興



■各地区での主な意見等(中央地域)

提案・要望等	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが大きくなっても町外に転居せず, 生活ができるまちの実現 ○高齢になっても熊野町に住み続けることができる対処 ○新しい人を呼び込める魅力ある場所づくり(特徴あるまちづくり) 例: スポーツするなら熊野(女子サッカー等のまちづくりへの活用) ○東広島方面に目を向けたまちづくり(県道矢野安浦線バイパスの整備を活かす)
	提案・要望	<ul style="list-style-type: none"> ○町道整備, 県道矢野安浦線(現道)と本通り(旧道)を結ぶ生活道路の整備(新設・拡幅) ○旧道(商店街通り)における歩きやすい環境の実現(時間帯による通行規制等) ○北部農道の速度規制
		<ul style="list-style-type: none"> ○住民と行政の協働によるおでかけ号の運行改善 ○自動運転バスの運行(20年・30年先を見据えた町内外の移動環境の検討) ○筆の里工房に訪れた観光客が回遊できる環境 (観光に特化した賑わいづくりのための仕組みづくり)
		<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関が集約された施設の設置, 入院できる病院や療養型病院の誘致 ○ハローズ周辺等の利便性が良い場所への飲食店の誘導 ○高校生等, 若い人が楽しめる場所づくり(娯楽施設等の誘致)
		<ul style="list-style-type: none"> ○公園整備とあわせた避難場所の確保 ○アーバンスポーツができる公園

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [西部地域]

■主な意見等 (西部地域)

地域 特性	良い所	<ul style="list-style-type: none"> ○広島市・東広島市方面への交通アクセス性 ○田舎ならではの豊かな自然環境 ○昔から住んでる人が多く、顔見知り (安心して子育てができる) ○熊野モールが近くて便利、広電熊野営業所も近くにある ○熊野団地は土砂災害の危険性のある場所が少ない ○地域活動を行うための公園が近くにある
	問題 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○幹線道路の渋滞⇒団地内への通過交通の流入 (団地内の歩道が狭くて危険、速度規制の道路標示が消えている) ○見通しの悪い危険性の高い交差点が多い (熊野団地) ○幹線道路の交通量の増加 (平谷交差点の横断歩道が危険) →東広島BPの整備により大型車の交通量がさらに増加していくことが懸念 ○おでかけ号の利用者が少ない (将来も存続するか不安) ○筆の里工房周辺へのアクセス性 (公共交通では行けない) ○運転免許返納後の日々の買い物、町内バス路線の便数の少なさ ○大規模商業施設や子どもと行ける飲食店 (チェーン店) が近くにない ○広島市や呉市など町外の生活サービスへの依存 ○地域ならではの身近なお店の消失に対する懸念 ○公共施設等の利用性 (似たような施設があるが、地元の人あまり利用していない) ○坊主山商店街に駐車場がなく不便、坊主山商店街の空き店舗の増加 ○遊具のある公園が少ない、小さな子どもが安心して遊べる公園がない (利用者の混在) ○所有者等と連絡がつかない空き家等の増加 ○若い人のコミュニティや自治会の関心度の低下 (会員数等の減少) ○コミュニティの結束力の低下 (災害時の連絡体制等の不安)

報告事項①:住民意見聴取会(ワークショップ)の実施 [西部地域]

渋滞対策, 通過交通の流入抑制, 商業施設に対する不満, 既存商業集積の消失, 公共施設等の運営改善, 災害リスクへの対処, 地域コミュニティの衰退, 空き家等の問題の顕在化, 町内公共交通の存続性



■各地区での主な意見等 (西部地域)

方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○広島市内へのアクセスの良さ, 自然環境の豊かさなど, 熊野町の魅力を保全 →今ある良さはそのままに, 便利な場所はより便利にメリハリのあるまちづくり ○各々が楽しく暮らせるまち (大人が楽しめるまち=子どもも楽しめるまち) ○西部地域は熊野の西風新都 (働き世代が住みやすく, 広島に就職する人に選択される町) ○三世代交流のまちづくり ○行政と住民の連携によるまちづくり
	<ul style="list-style-type: none"> ○熊野団地でのゾーン30の指定 (速度規制), 規制表示標識等の設置, 通過交通の通行止め
提案・要望等	<ul style="list-style-type: none"> ○広島・呉・東広島のトライアングルを活かした交通システムの充実 (通勤環境) ○西部地域⇄筆の里工房周辺エリアの公共交通手段の確保 (アクセス改善) ○おでかけ号の増便, きめ細やかなルート設定, 運行に係る情報発信
	<ul style="list-style-type: none"> ○坊主山商店街での駐車場の整備 (商店街の利便性向上) →駄菓子屋など地域ならではの店の維持, 坊主山商店街の復活 ○熊野モール周辺への大型商業施設やファーストフードの誘致
	<ul style="list-style-type: none"> ○坊主山緑地の再整備
	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家の活用助成, 空き家バンク, 住宅取得に係る補助金の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ○二河川の浸水対策の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ○元気な高齢者の活用 (清掃活動, ボランティア等), コミュニティ活動のきっかけづくり ○熊野町の特産物, 地ビール醸造所等の新たな資源づくり, 産直市場の整備 ○筆の里工房を中心としたコミュニティ活動の拠点づくり ○町長と直接意見交換ができる仕組みづくり (住民と行政のホットライン)
	<ul style="list-style-type: none"> ○元気な高齢者の活用 (清掃活動, ボランティア等), コミュニティ活動のきっかけづくり ○熊野町の特産物, 地ビール醸造所等の新たな資源づくり, 産直市場の整備 ○筆の里工房を中心としたコミュニティ活動の拠点づくり ○町長と直接意見交換ができる仕組みづくり (住民と行政のホットライン)

報告事項②:計画策定に係る庁内関係各課ヒアリング

- 立地適正化計画は、まちづくりに係わる様々な関係施策と連携を図り、総合的に検討することが必要であるため、方針等の具体的な検討に先立ち、**情報収集として、各所管課が認識するまちの課題や今後の事業見込み等を把握するためのヒアリング調査を実施した。**

■ 庁内関係各課ヒアリング

概要	<ul style="list-style-type: none"> 調査では、各課が認識する熊野町の課題や問題点を主に伺い、加えて、現時点で想定している対応策や誘導施設の設定要否（施設の利用実態や過不足、住民ニーズ等）に関する意向についても聞き取り等を実施した。 関係課から意見のあった課題や事業計画等を認識した上で、立地適正化計画の取組で対処・反映できる内容等について引き続き検討する。
実施日	令和5年2月8日～令和5年2月9日※ ※生活環境課の意見交換は令和4年12月6日
(実施日) ヒアリング先	生活環境課, 高齢者支援課, 健康推進課, 子育て支援課, 産業観光課, 教育総務課, 農林緑地課, 防災安全課, 都市整備課



報告事項②:計画策定に係る庁内関係各課ヒアリング

ヒアリング先	主なヒアリング内容
生活環境課	町内の公共交通の状況・問題, 熊野町地域公共交通計画(方針案, 施策の方向性等)
高齢者支援課	町内外の介護サービス・事業所の状況・ニーズ等, 高齢者福祉とまちづくりの連携等
健康推進課	町内の医療体制・ニーズ, 周辺市町との医療連携
子育て支援課	町内の保育・子育て支援サービス等の状況, 子育て関連施設の立地, 住民ニーズ等
産業観光課	移住定住促進策, 商店街等や筆の軸構想エリアを中心とするこれからのまちづくりの方向性, 商工業活性化の方向性等
教育総務課	今後の学校規模の適正化の方向性, 社会教育系施設の再編等の可能性等
農林緑地課	都市緑化(森林・農地等)の問題・今後の方向性, 市街化区域内農地の保全・活用
防災安全課	自主防災組織や個別避難計画の状況, ハザードエリアと居住誘導の調整等
都市整備課	現状の住宅施策・今後の見直し等, 空き家対策, ハザードエリアからの移転支援策

報告事項③:熊野町立地適正化計画 職員ワークショップの開催

町役場の関係部局が一体となり、連携して立地適正化計画を策定する取組の一つとして、令和5年3月23日に熊野町職員ワークショップを実施した。

ワークショップの様子

■ 開催概要

名称	コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けて熊野町の今後のまちづくりに向けたアイデア提案会
目的	関係職員が一体となって、立地適正化計画に関する理解を深め、計画の策定に向けた具体的な方策を検討すること。 具体的には、計画策定に必要な情報収集や課題解決のための施策の検討に向けたアイデア出し、関係部署の役割分担や協働体制の確認、職員間のコミュニケーションや意見交換を通じた職員の意識の共有を図ることも目的とする。
開催日時 場所	令和5年3月23日（木曜日）9時～12時 役場 3階会議室
参加者	12名（若手職員）※主事，主任主事等
内容	今後のまちづくりプロジェクトの検討・提案

■ 主な提案の内容

A班	空き家を利用した飲食店や保育施設等の整備に対する補助 +その場所にアクセスするためのおでかけ号等の充実（割引連携）
B班	G beats（ジーバーイーツ）“人材の地産地消”定住環境向上 ・防災センターを拠点に元気な高齢者等が高齢者を支える生きがいづくり（病院への送迎，食の配送）+大学生のUターン奨学金
C班	KTSP（熊野町転入促進プロジェクト）未来につなぐまちづくり ①住むなら熊野の増額（自動車購入費等），支援制度のPR ②農地転用，空き家活用，ハザードエリアに住む方への移住支援金等 ③地元の若者居住者に対する補助金（定住支援）



2. 第2回策定委員会の意見と対応

第2回立地適正化計画策定委員会の意見について

		テーマ
令和4年度	第1回委員会 [10月7日開催]	「熊野町立地適正化計画の策定について」 1. コンパクト・プラス・ネットワークについて 2. 立地適正化計画の策定について
	第2回委員会 [1月10日開催]	「立地適正化計画の検討について」 1. アンケート調査の結果について 2. 課題分析・課題抽出 <ul style="list-style-type: none"> 2-1：都市特性に関する分析 2-2：熊野町が抱える課題の分析 2-3：解決すべき課題の抽出 <div style="border: 1px dashed black; background-color: yellow; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">⇒ 資料2 第2回策定委員会概要</div>
令和5年度	第3回委員会 [5月9日開催]	「熊野町立地適正化計画の基本的な方針等」 1. 都市づくりの方針 2. 立地の適正化に関する基本的な方針
	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画骨子案 (誘導施設・区域・施策等)
	第5回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立地適正化計画（素案）について
	第6回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメント等の結果報告 ・ 立地適正化計画最終案の確認

1. アンケート調査の結果について

1) 町民の現在の不便・不安や将来の懸念への対応が重要 高井委員

- 町民の関心は交通問題と医療体制であるが、立地適正化計画による取組で解決できる場合もあるため、計画検討では十分な考慮が必要である。

2) 町民の理解を促す工夫が必要 田中会長, 廣中委員

- 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の内容を理解していない回答が多い。
- あれも欲しい, これも欲しいを叶える計画ではないため, 住民への説明を充実させ, 適切な計画作成を行うことが求められる。
- 立地適正化計画の目的等について, 町民がより理解しやすいような工夫が必要。

3) 人口増減の要因に関する丁寧な分析が必要 神田副会長, 高井委員, 平岡委員

- 人口増減は社会減と自然減があり複数の要因が関与している。
- どの世代が県内市町等へ移ろうとしているかを把握するためにも, 回答者属性等の詳細な分析が必要である。

2. 課題分析・課題抽出

1) 熊野町のポテンシャル（可能性）の再評価 神田副会長，根本委員，高井委員ほか

- 熊野団地や他の地区には，過小評価されたポテンシャルがあり，それを引き出すためにも支障要因（ボトルネック）を丁寧に分析し，前向きな計画として立案する必要がある。 →都市全体のマクロな分析＋地域特性を踏まえたミクロな分析

2) 交流人口の視点を取り入れる 廣中委員

- 人口減少下では，町内だけでなく周辺市町との交流・連携（交流人口の増加）の視点が重要である。交流人口の視点も踏まえて，集約化の方針を考える必要がある。

3) 周辺市町の状況を踏まえた熊野町の位置付けの再考 神田副会長

- 東広島B Pの^{バイパス}開通に伴う広域ネットワークの変化や周辺市町の開発状況等を踏まえて，熊野町の位置付けを再考する必要がある。

4) バス等の公共交通とまちづくりとの対応を密に考える。 梶山委員，田中会長

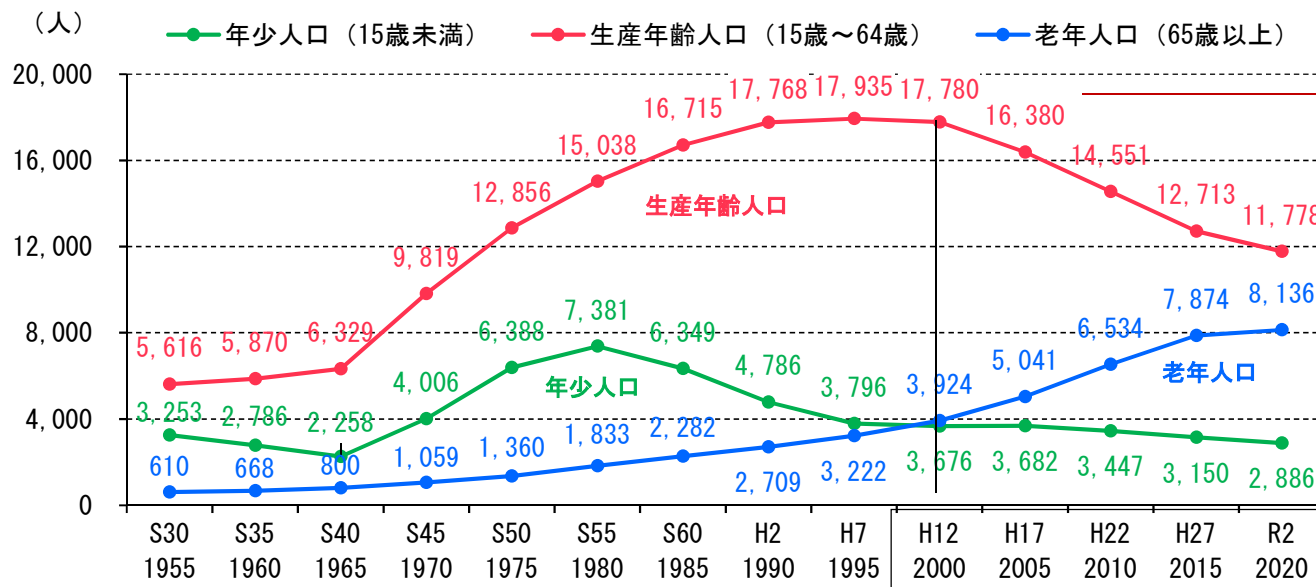
- まちづくりに直結する公共交通体系についても再考する必要がある。
- 現在策定中の「熊野町地域公共交通計画」と密に連携することが必要である。

5) 熊野町ならではの「強み」を活かす 神田副会長，梶山委員

- 熊野団地のポテンシャルや強みをより考慮した戦略が必要である。
- 熊野町は，団地の問題等に対して，町民が自治を行う権利を有する。

① 熊野町の人口推移について

第2回策定委員会資料

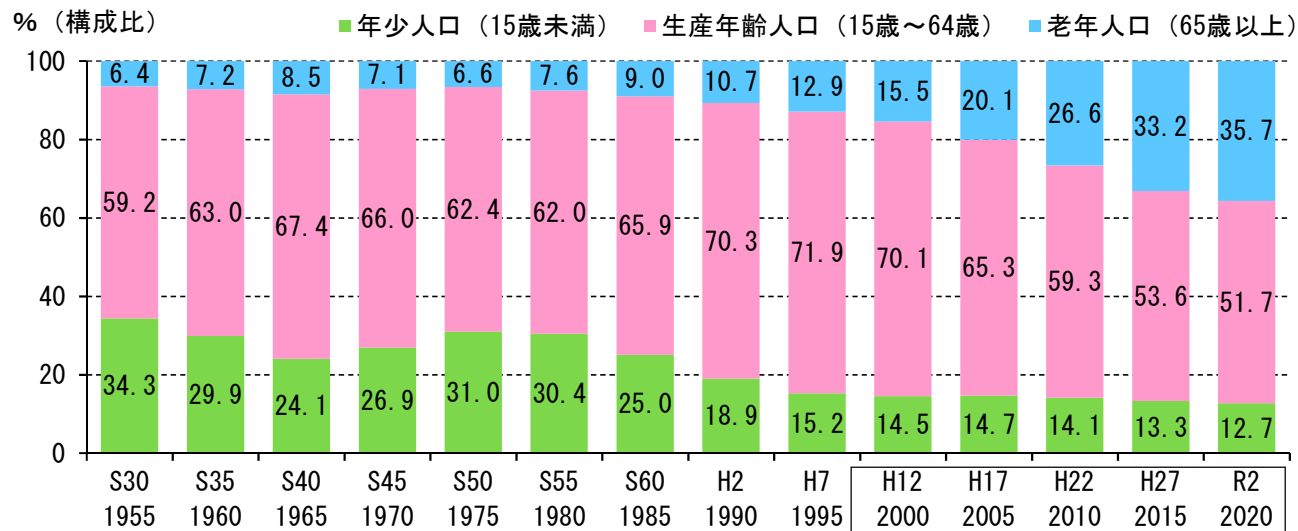


平成12年以降
生産年齢人口
(15～64歳)
が大幅に減少

20年間で
約6,000人減
増減率：-33.8%

神田副会長

熊野町の人口減少は、
少子高齢化による減少
だけでなく、**人口流出**
による減少にも注意が
必要。



高井委員

一般的に大都市周辺の
中小都市では、大都市
へ若者が流出する

■ 人口・世帯数・1世帯あたり人員（世帯人数）の推移（上） 出典：総務省統計局 国勢調査（各年数値は10月1日時点）
と全人口に占める各年齢区分人口の割合の推移（下）

② 熊野町の今後のまちづくりに関するアンケート調査 調査結果（年齢階層別）

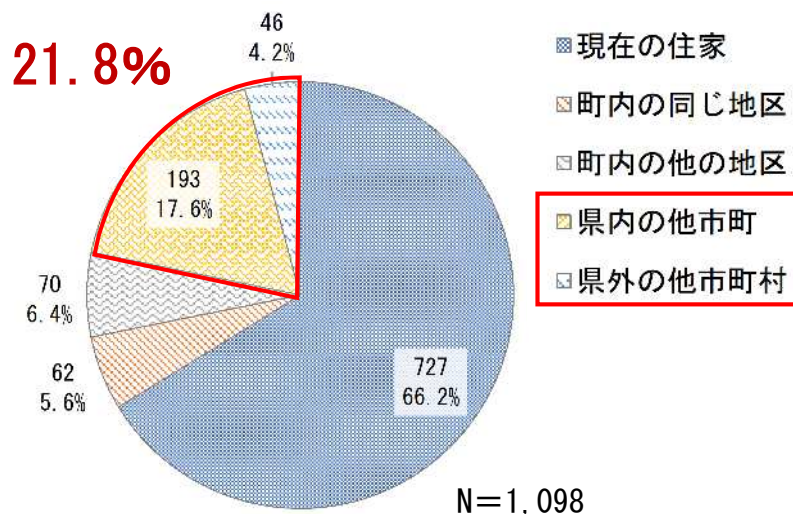
第2回策定委員会資料

（アンケート調査結果）

➤ 2割以上が「他市町に住みたい」と回答

■ 20年後に住みたい場所（居住場所）

【問14】 今後（20年～30年後）を想定した場合、あなたが住みたい場所や住宅の種類をお聞かせください。



神田副会長

・ 他市町に住み替えたいが**2割超えは異常**。
一方で、この結果には年齢層の偏りがある
可能性がある

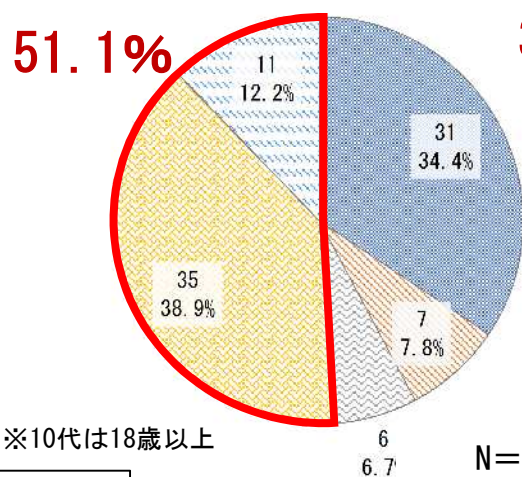
平岡委員

・ 回答者の年齢構成などの詳細を知りたい

➤ 年齢別：10代・20代が最も高く、次いで50代が高い

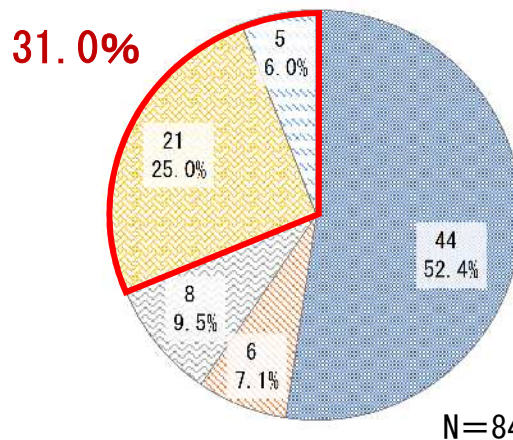
（10代・20代は半数以上、50代は30代・40代より割合高い）

10代・20代*

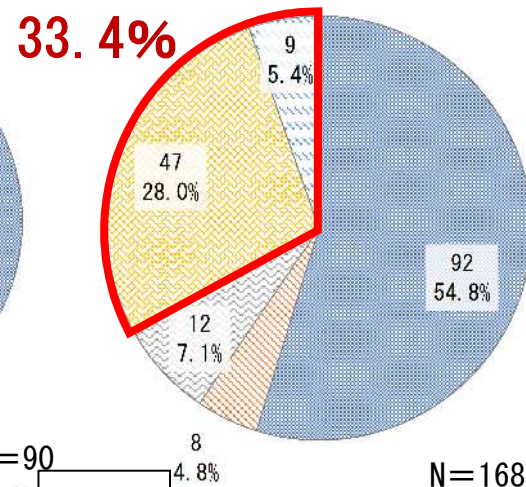


※10代は18歳以上

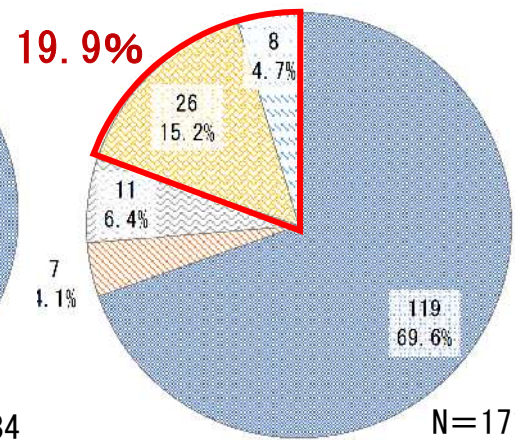
30代



50代



60代



参考：40代は27.1%（N=148），70代は8.5%（N=284），80代は9.7%（N=165）

③ 年齢階層別の純移動（社会増減）

【平成22年から平成27年の人口移動】

熊野町人口ビジョン（令和2年10月）

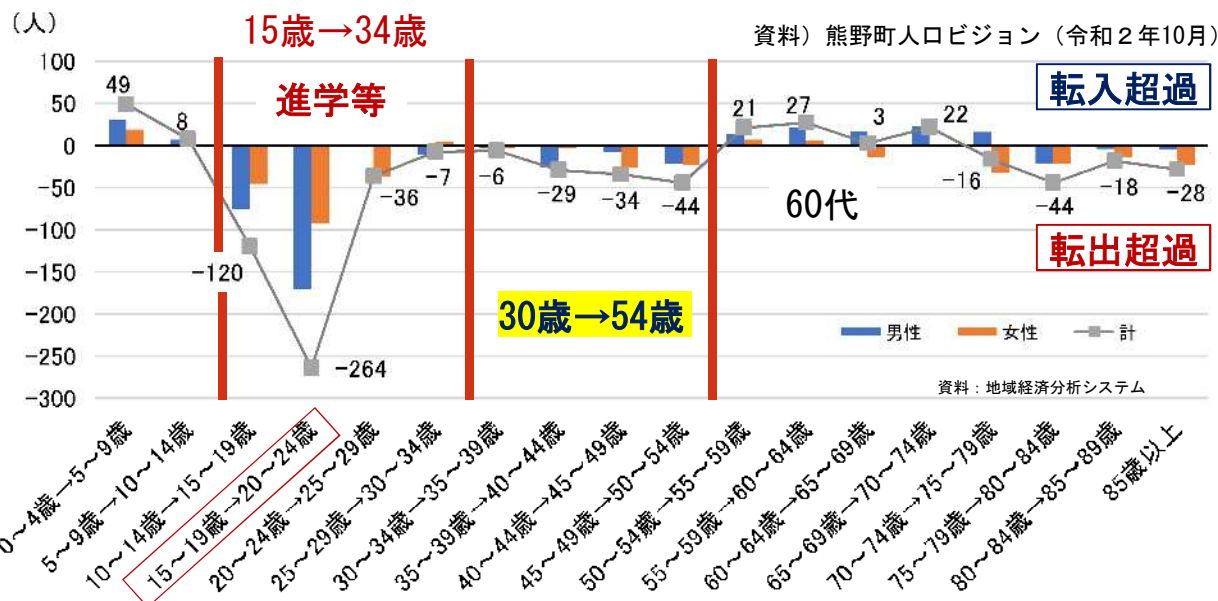
- 10代後半から20代前半に転出超過（進学等）
- 50代・60代は転入超過があるものの、他の世代でも総じて転出超過

若者の就労・子育て世代の
移住・定住，雇用問題等が影響

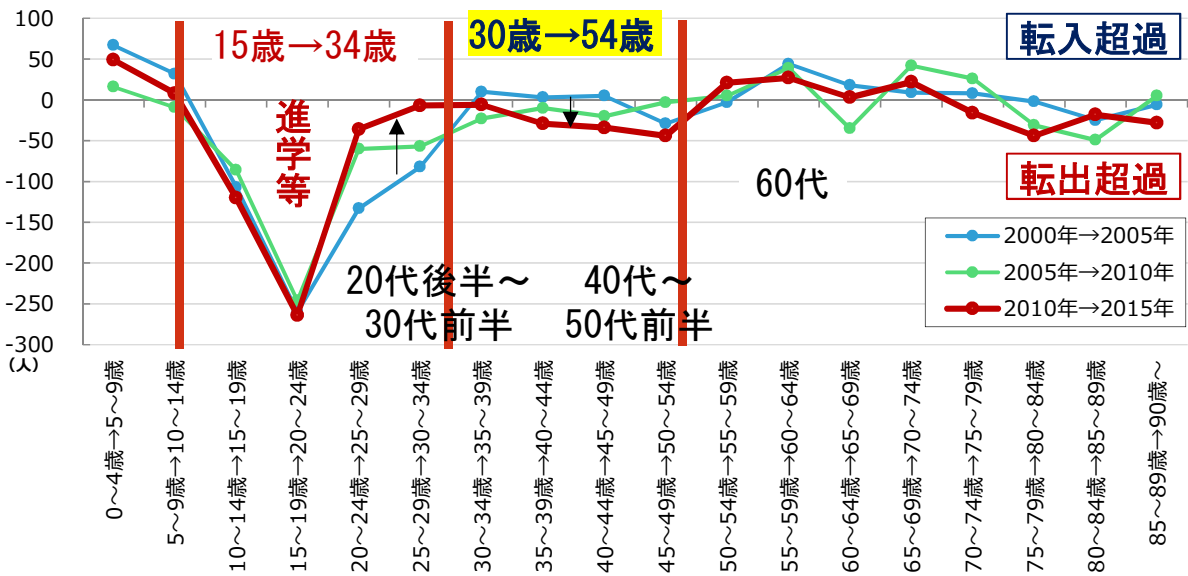
資料）熊野町人口ビジョン（令和2年10月）

（補足：経年変化）

- 20代後半から30代前半の転出超過は減少傾向
- 40代から50代前半の転出超過はやや増加傾向。



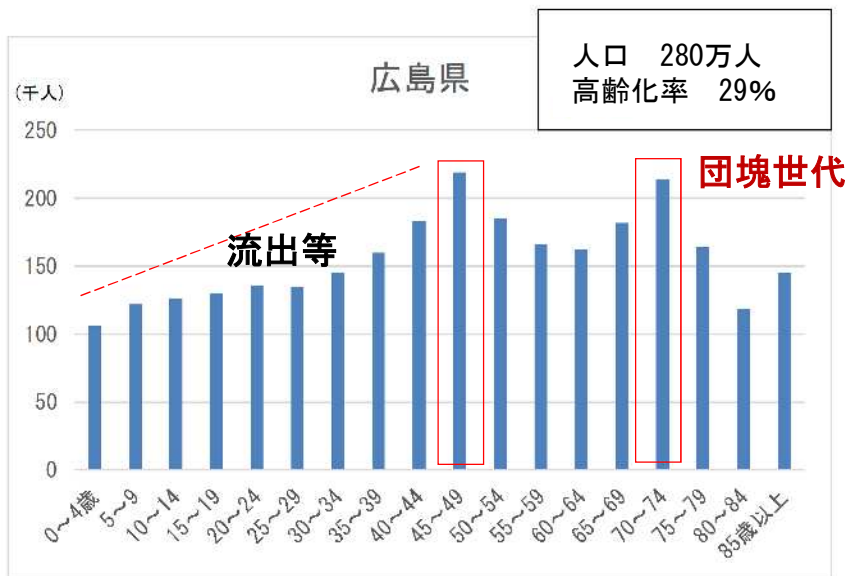
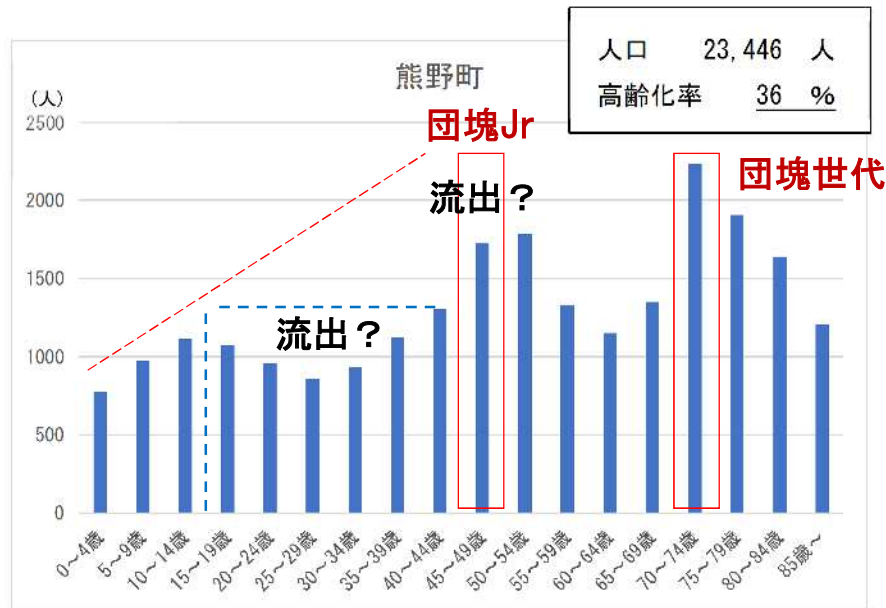
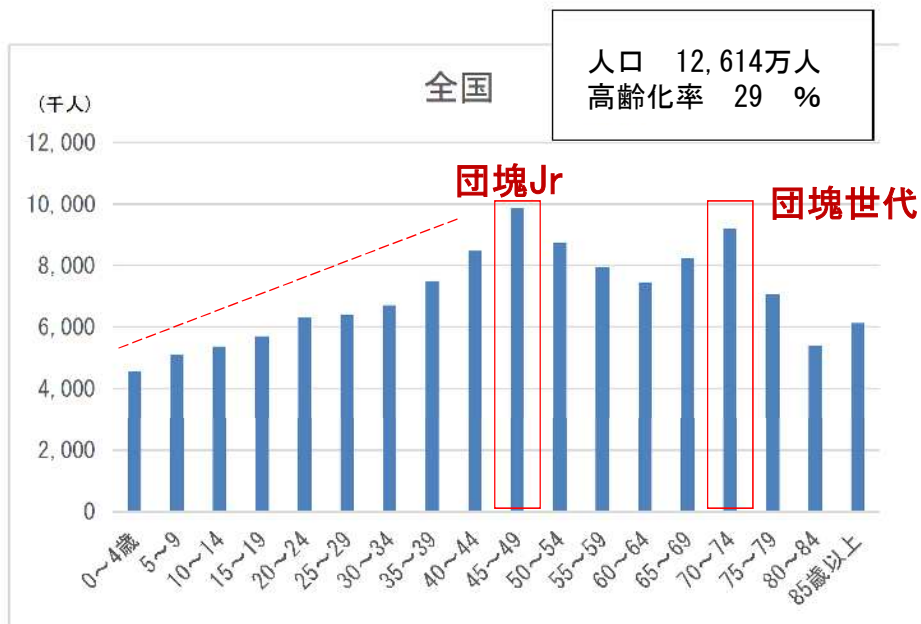
■平成22年（2010年）→平成27年（2015年）の性別・年齢階級別人口移動の状況



■年齢階級別純移動数の時系列推移

資料）地域経済分析システム RESUS 出典：（総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成）

④ 5歳階級別人口（全国・広島県・熊野町の比較）



・**広島県の転出超過は都道府県で2年連続1位**

→ 人口バランスは全国とほぼ同様。

・**熊野町は、全国、広島県と比較しても人口構成**

バランスが歪み

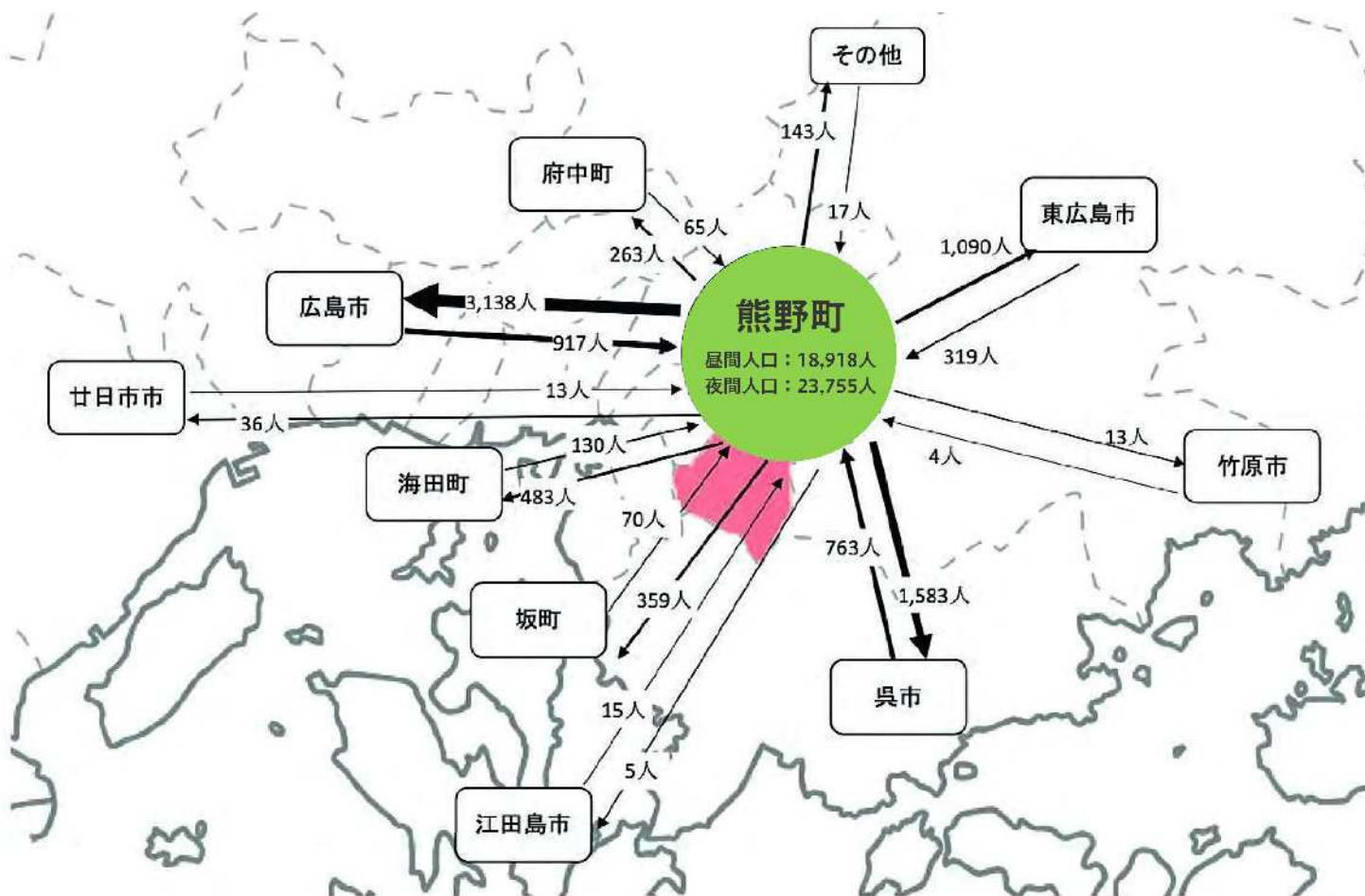
一般的なつぼ型ではなく、10代後半~40代前半の人口の割合が極めて少ない

→10代後半で町外に出ていった若年層は、
そのまま戻ってこずの状況
(Uターン等も少ない)

⑤ 通勤・通学の流出入と転出入

神田副会長

- 熊野町は広島市内への流出が多く、利便性が高い場所への移住（流出）が進んでいる可能性がある
- 人口減少の要因を把握することが重要な議論のポイント

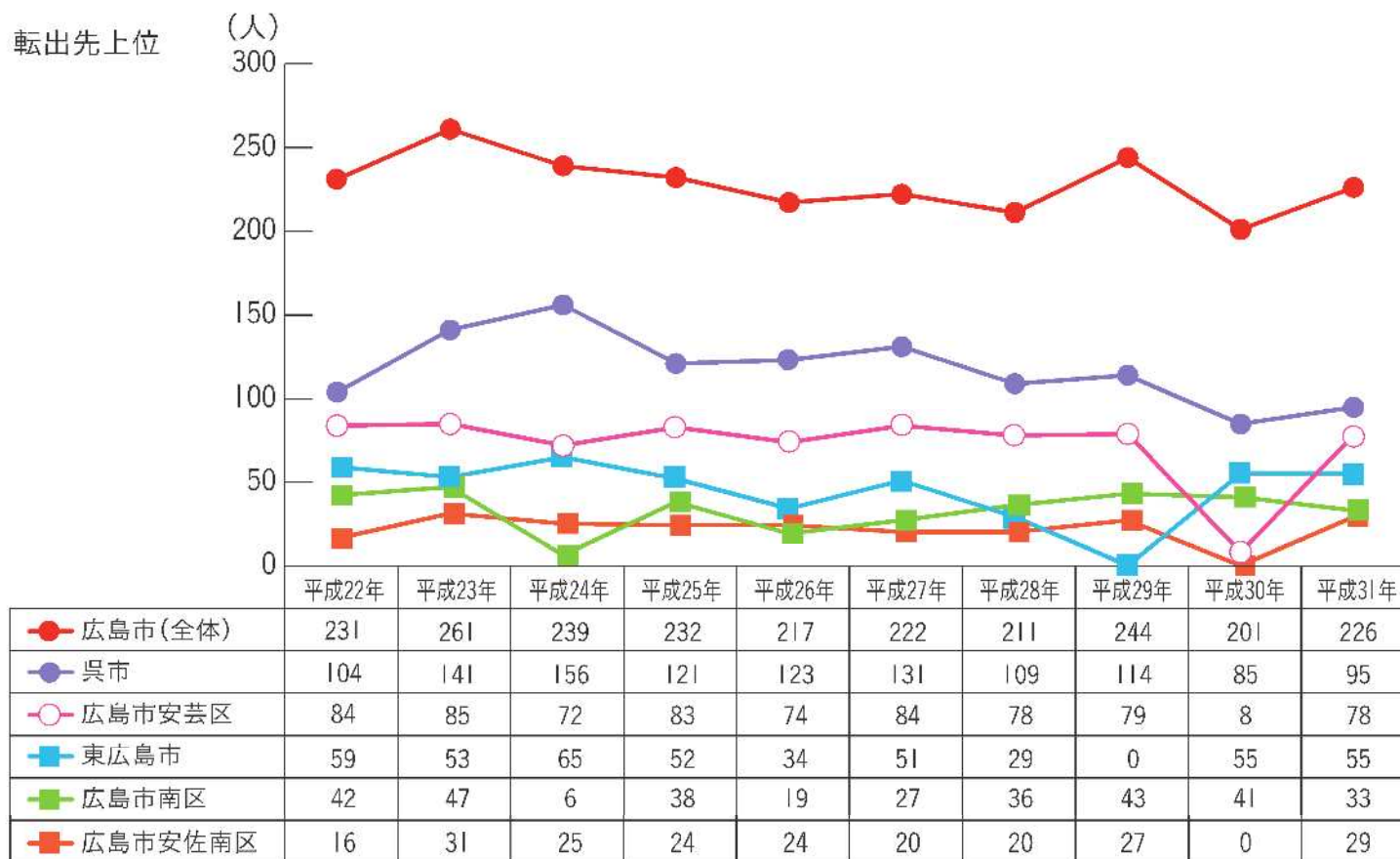


■就業者・通学者の流出・流入の状況（平成27年）

⑤ 通勤・通学の流出入と転出入

神田副会長

- 熊野町は広島市内への流出が多く，利便性が高い場所への移住（流出）が進んでいる可能性がある
- 人口減少の要因を把握することが重要な議論のポイント**



■ 人口動態（転出先上位）

⑥ 転出・転入理由 ～広島県人口移動調査・周辺市町との比較からみえてきたこと～

転出理由

県内移動

- 県内市町への転出理由は、「住宅事情（新築・転宅など）」が圧倒的に多い（周辺市町と比較しても割合高い）
- 「就職」「入学・転校」「通勤・通学の便」を理由とする転出も周辺市町と比較すると高い。
- 「主因者に伴う者」による転出は、周辺市町と比較すると割合が少ない。

県外移動

- 県外移動の転出理由は「就職」が最も多く、次いで「入学・転校」が多いが、周辺市町と比較すると「住宅事情」の割合が高い。

■ 市区町別、理由別移動者総数（転出） [令和3年]

理由	総数	移動の主因者														主因者に伴う者
		総数	就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・通学の便	結婚・離婚・養子縁組	子育て環境上の理由	介護	住宅事情	その他	不詳		
広島県	64,351	49,676	9,294	10,263	3,586	1,171	2,612	2,217	5,621	776	1,165	4,336	6,598	2,037	14,675	
広島市	23,917	17,259	2,752	3,468	1,092	423	806	974	2,097	352	407	2,155	2,207	526	6,658	
安芸区	2,451	1,709	262	378	112	45	69	99	205	46	36	267	163	27	742	
呉市	5,881	4,738	742	1,595	305	154	195	169	460	67	124	535	376	16	1,143	
東広島市	5,607	4,657	1,251	865	422	110	274	202	465	49	65	165	758	31	950	
安芸郡	4,487	3,300	444	615	179	55	163	181	385	42	71	467	378	320	1,187	
府中町	1,854	1,300	201	229	88	26	55	61	185	25	34	183	209	4	554	
海田町	1,432	1,006	93	123	63	18	20	45	106	5	12	121	93	307	426	
熊野町	594	500	99	52	12	2	68	54	41	3	12	126	24	7	94	
坂町	607	494	51	211	16	9	20	21	53	9	13	37	52	2	113	

理由	総数	移動の主因者														主因者に伴う者
		総数	就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・通学の便	結婚・離婚・養子縁組	子育て環境上の理由	介護	住宅事情	その他	不詳		
広島県	30,159	24,293	5,987	7,227	2,149	741	1,985	193	1,319	220	352	592	2,597	931	5,866	
広島市	10,400	7,945	1,863	2,837	680	259	650	40	422	73	100	138	608	275	2,455	
安芸区	980	762	169	320	66	29	60	1	39	8	10	16	34	10	218	
呉市	3,075	2,544	427	1,216	160	96	137	7	110	29	46	164	145	7	531	
東広島市	3,054	2,571	826	565	264	66	212	9	91	18	25	23	452	20	483	
安芸郡	1,457	1,122	271	332	94	31	109	7	38	10	21	41	77	91	335	
府中町	726	530	140	187	51	17	47	2	20	5	9	8	42	2	196	
海田町	419	333	66	89	33	12	14	0	11	0	3	5	11	89	86	
熊野町	183	160	35	32	5	0	34	5	5	3	5	27	9	0	23	
坂町	129	99	30	24	5	2	14	0	2	2	4	1	15	0	30	

資料) 広島県人口移動統計調査 (令和3年)

⑥ 転出・転入理由 ～広島県人口移動調査・周辺市町との比較からみえてきたこと～

転入理由

- 県内市町からの転入理由は、主因者に伴う者に次いで「住宅事情」が多い。
(周辺市町と比較しても割合高い) ※県外移動も同様の傾向

■ 市区町別、理由別移動者総数（転入） [令和3年]

理由 市区町	総数	移動の主因者													主因者に伴う者
		総数	就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・通学の便	結婚・離婚・養子縁組	子育て環境上の理由	介護	住宅事情	その他	不詳	
広島県	59,873	45,716	7,379	9,717	3,211	1,305	2,063	2,205	5,527	766	1,214	4,331	6,287	1,711	14,157
広島市	27,345	20,483	3,215	4,347	1,344	463	652	1,375	2,562	360	499	2,278	2,706	682	6,862
安芸区	2,316	1,732	179	482	87	51	20	72	299	26	39	199	214	64	584
呉市	4,024	3,311	608	1,286	138	104	115	70	261	40	81	254	301	53	713
東広島市	5,641	4,439	790	824	370	111	684	145	450	60	104	308	482	111	1,202
安芸郡	4,059	2,820	393	435	173	58	34	159	457	59	46	432	373	201	1,239
府中町	1,898	1,248	130	234	94	29	7	78	225	30	16	185	171	49	650
海田町	1,220	893	92	126	47	14	9	54	164	15	6	128	106	132	327
熊野町	495	339	27	38	17	6	11	17	41	9	16	89	58	10	156
坂町	446	340	144	37	15	9	7	10	27	5	8	30	38	10	106

理由 市区町	総数	移動の主因者													主因者に伴う者
		総数	就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・通学の便	結婚・離婚・養子縁組	子育て環境上の理由	介護	住宅事情	その他	不詳	
広島県	25,681	20,333	4,072	6,681	1,774	875	1,436	181	1,225	210	401	587	2,286	605	5,348
広島市	9,380	7,195	1,524	3,053	613	296	362	42	351	76	119	132	521	106	2,185
安芸区	842	666	78	402	51	33	11	2	38	5	12	5	28	1	176
呉市	2,270	1,893	390	898	81	73	46	1	82	14	41	122	142	3	377
東広島市	3,171	2,622	536	607	242	82	632	25	143	25	47	36	215	32	549
安芸郡	1,397	1,001	166	319	92	34	12	14	61	10	18	44	98	133	396
府中町	681	466	73	201	54	21	4	4	34	6	9	8	49	3	215
海田町	417	309	41	72	26	8	3	0	17	1	1	1	14	125	108
熊野町	162	120	11	22	4	0	4	10	6	3	5	33	17	5	42
坂町	137	106	41	24	8	5	1	0	4	0	3	2	18	0	31

- 「住宅事情」は転出も転入も多い → R3調査では住宅事情は転出超過の状況
- 「就職」「入学」「入学・転校」「通勤・通学の便」は転出超過、「主因者に伴うもの」は転入超過

■ 市区町別、理由別移動者総数（転入・転出） [令和3年] ※県内移動のみ

理由 市区町	総数	移動の主因者													主因者に伴う者
		総数	就職	転勤	転業・転職	退職・廃業	入学・転校	通勤・通学の便	結婚・離婚・養子縁組	子育て環境上の理由	介護	住宅事情	その他	不詳	
呉市	△1,857	△1,427	△134	△309	△167	△50	△80	△99	△199	△27	△43	△281	△75	37	△430
東広島市	34	△218	△461	△41	△52	1	410	△57	△15	11	39	143	△276	80	252
府中町	44	△52	△71	5	6	3	△48	17	40	5	△18	2	△38	45	96
海田町	△212	△113	△1	3	△16	△4	△11	9	58	10	△6	7	13	△175	△99
熊野町	△99	△161	△72	△14	5	4	△57	△37	0	6	4	△37	34	3	62
坂町	△161	△154	93	△174	△1	0	△13	△11	△26	△4	△5	△7	△14	8	△7

⑦ 熊野団地の人口減少要因に関する分析

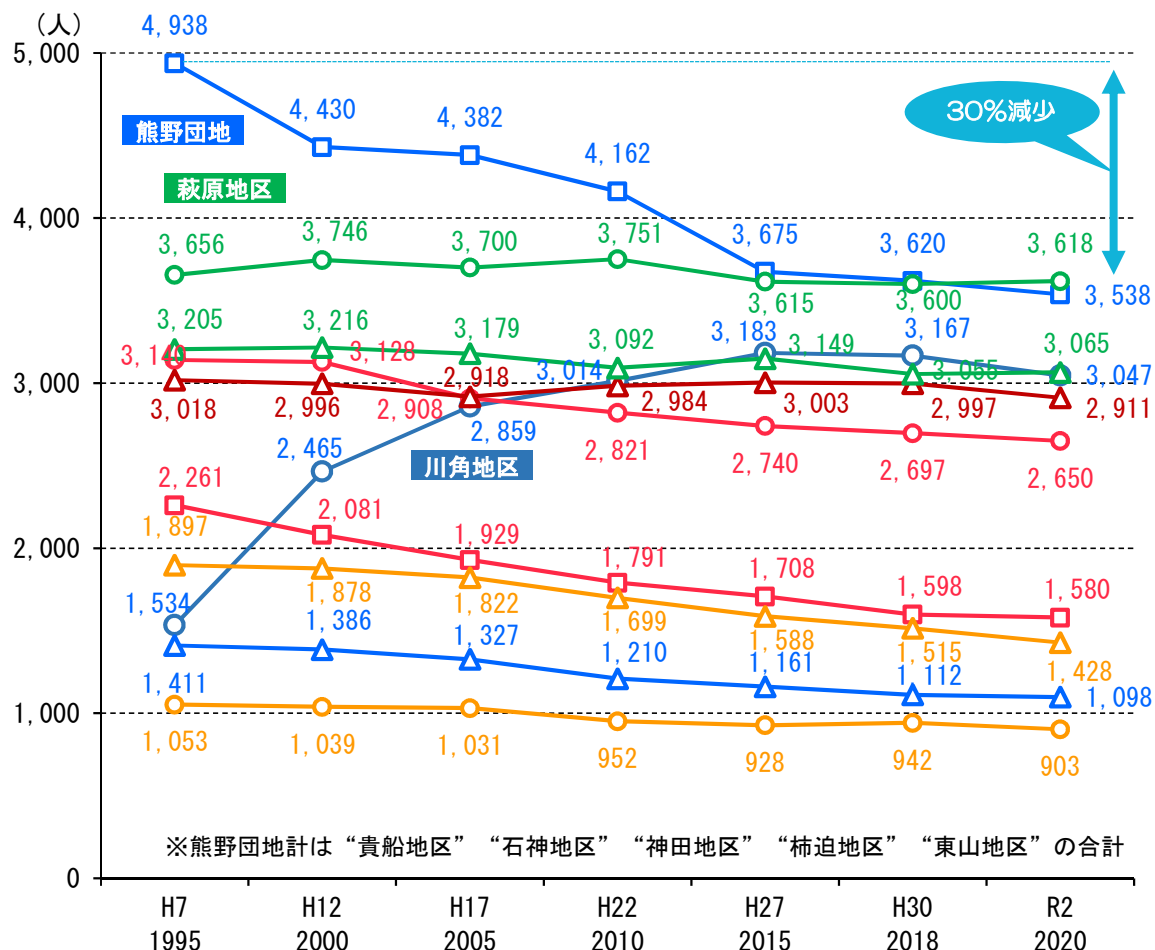
- 熊野団地は中長期的に減少傾向、今後も人口減少が見込まれている。

熊野副会長

• 集合住宅が戸建て住宅に建て替わることで人口が減少しているのではないかと。

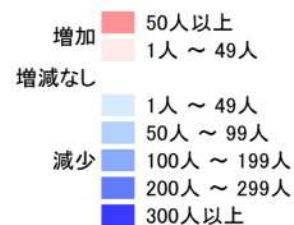
根本委員

• 子ども世代の流出により人口減少が進んでいると思われる。恒久的には減少しないのでは？

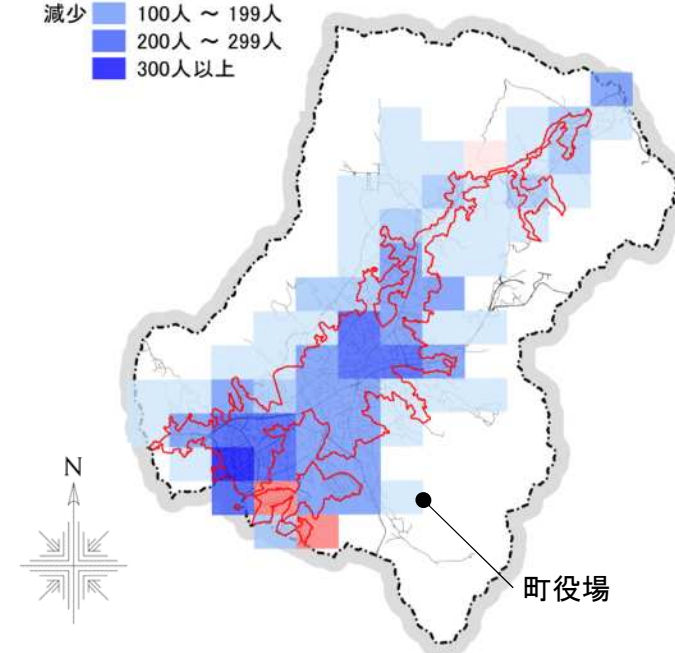


第2回策定委員会資料

人口増減 (R2~R22)



令和2年→令和22年



■ 2020 (令和2)年と2022 (令和22)年の人口増減

出典：住民基本台帳 (各年3月時点)

■ 地区別人口の推移

出典：総務省統計局 国勢調査, 国立社会保障・人口問題研究所 将来人口 (令和2年10月)

⑦ 熊野団地の人口減少要因に関する分析

県営熊野住宅（熊野北県営）

高層ブロック	当時約70戸	→ 現在 144戸
北ブロック	当時 164戸	→ 現在 126戸
南ブロック	当時 265戸	→ 現在 154戸（予定）
県営南熊野住宅	当時 99戸	→ 現在 0戸（廃止）
県営西熊野住宅	当時 119戸	→ 現在 39戸（廃止予定）
雇用促進住宅	当時 80戸	→ 40戸
自衛隊官舎	当時 84戸	→ 0戸（廃止）



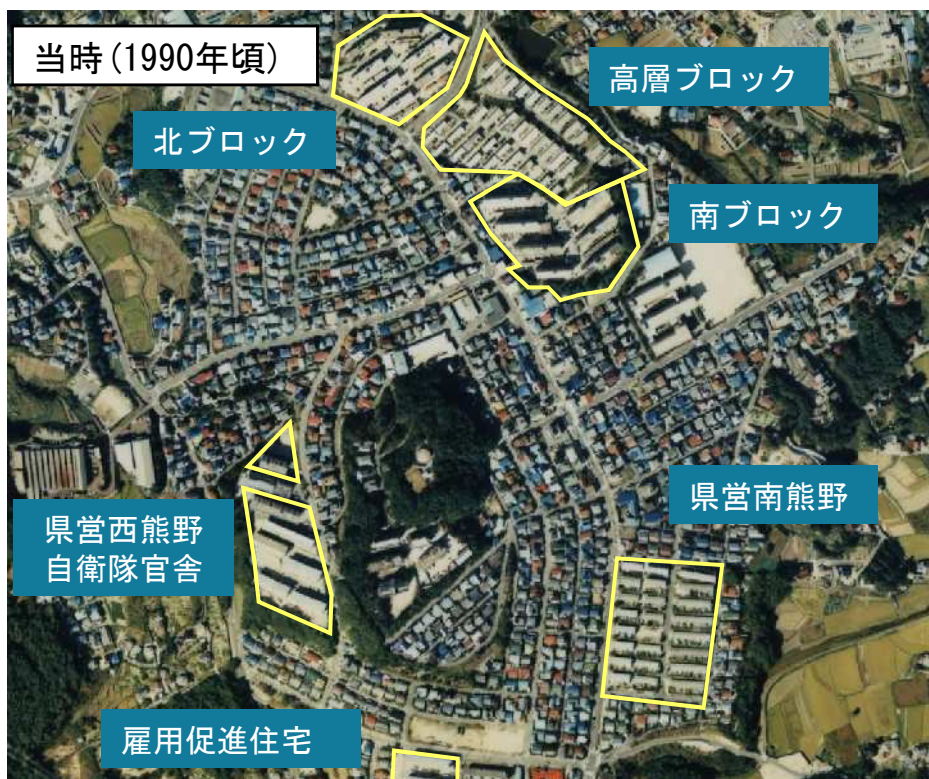
建替え前



建替え後

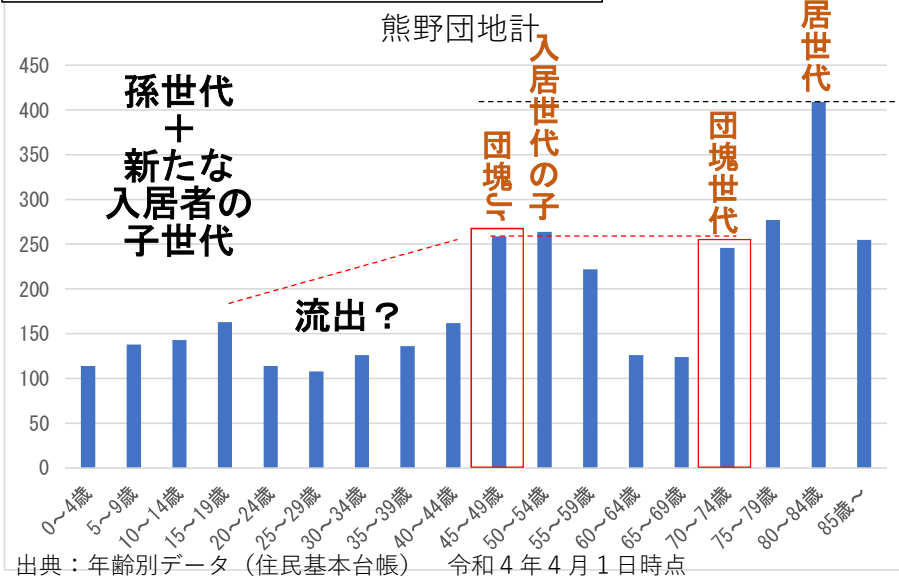
県営熊野住宅（北ブロック）

・ 1990年頃：約900戸 → 2022年：約500戸 400戸以上減少

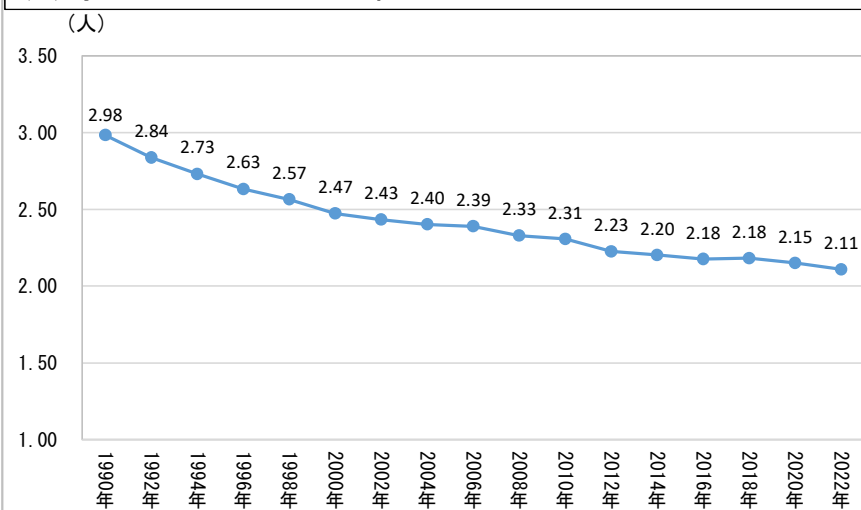


⑦ 熊野団地の人口減少要因に関する分析

人口：3,386人（高齢化率 39%）



熊野団地における世帯当たりの人口：2.98人→2.11人



出典：令和4年度熊野町町勢要覧（住民基本台帳 各年3月31日時点）

・熊野団地に当初入居していた世代は、団塊世代（第一次ベビーブーム世代）より、年齢層が高い世代。（現：80～84歳で最も人口が多い年齢層）

※熊野団地の人口減少の要因は前述した県営住宅等の廃止と上記の団塊世代の高齢化による自然減（世帯当たりの人口減にもつながっている）と想定される。

・熊野団地の入居世代の子ども世代にあたる60歳未満の人口は、入居世代の人数と比較して著しく少ない（→ 子世代の流出）

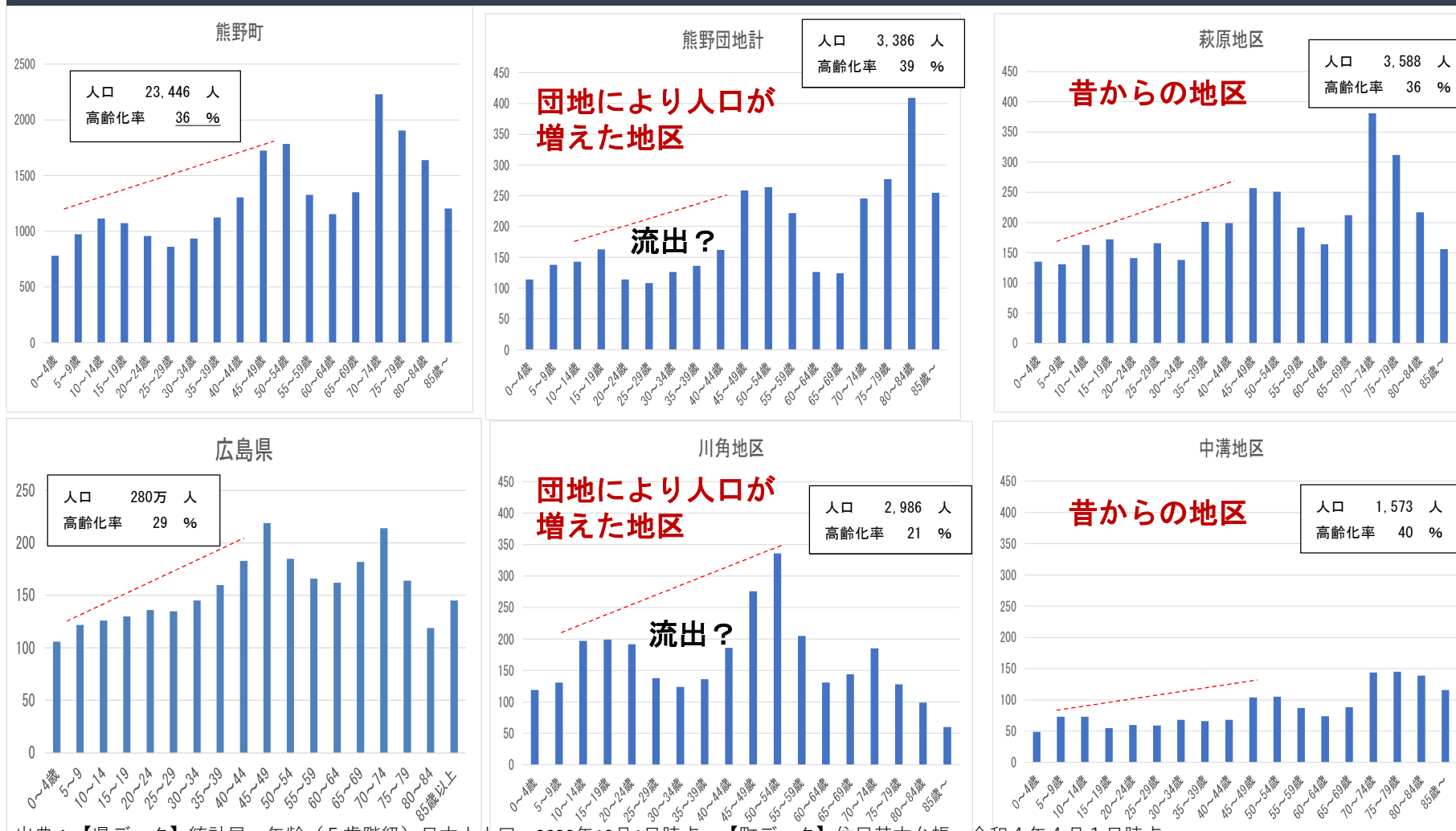
・熊野団地では、**0歳～19歳の人口も一定数いるため、居住者の入れ替わりも進んでいる**と想定される。

・熊野団地に当初入居されていた世代は、数年後にはそのほとんどが85歳以上になるため、推計上は今後、大幅な人口減となる。

※推計上は、新たに流入してくる人口より、入居世代等の高齢化に伴う自然減による影響が大きく、人口減少の推計となる。

→ 熊野団地では、新たな入居者を誘導し、円滑な住み替えを図る必要がある。

⑦ 熊野団地の人口減少要因に関する分析



出典：【県データ】統計局 年齢（5歳階級）日本人人口・2020年10月1日時点 【町データ】住民基本台帳 令和4年4月1日時点

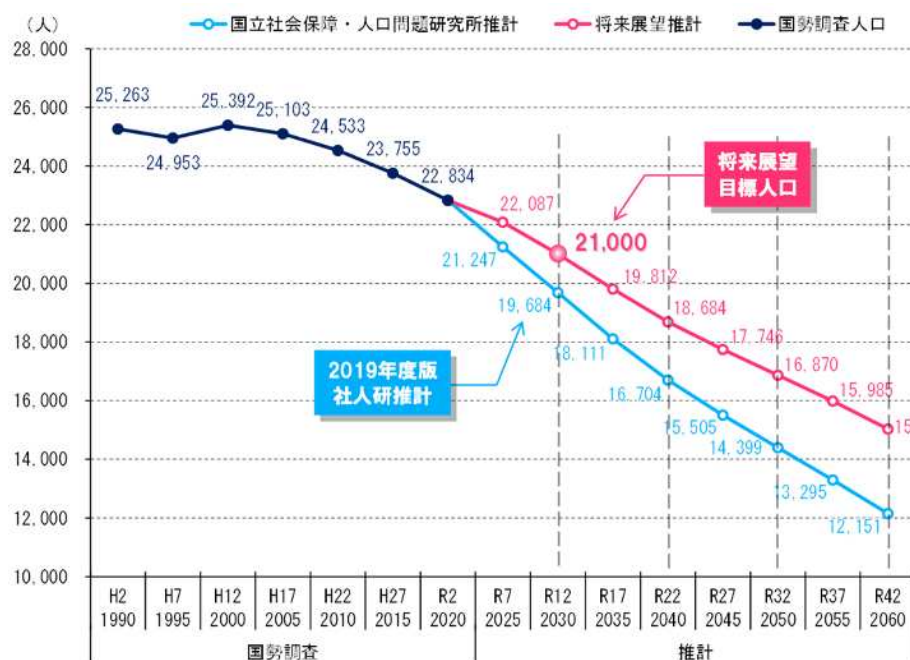
- 5歳階級別の人口を見ると、熊野町では70歳から74歳の団塊の世代が一番多い状況
- 地区別にみると、大規模な団地がある地区では、20代後半から40代前半の人口が少ない傾向
- 一方、萩原地区などの居住地は、20代後半～40代前半の人口が一定数存在
- ⇒親族等が所有する住宅や土地に住めることが20代～40代の町内居住の条件になっている可能性がある
- ⇒**団地で育った居住者は、住宅や土地の問題により、町外に流出した後、戻ってこない方が多いと推測**

⑧熊野町の将来展望人口（熊野町人口ビジョン）

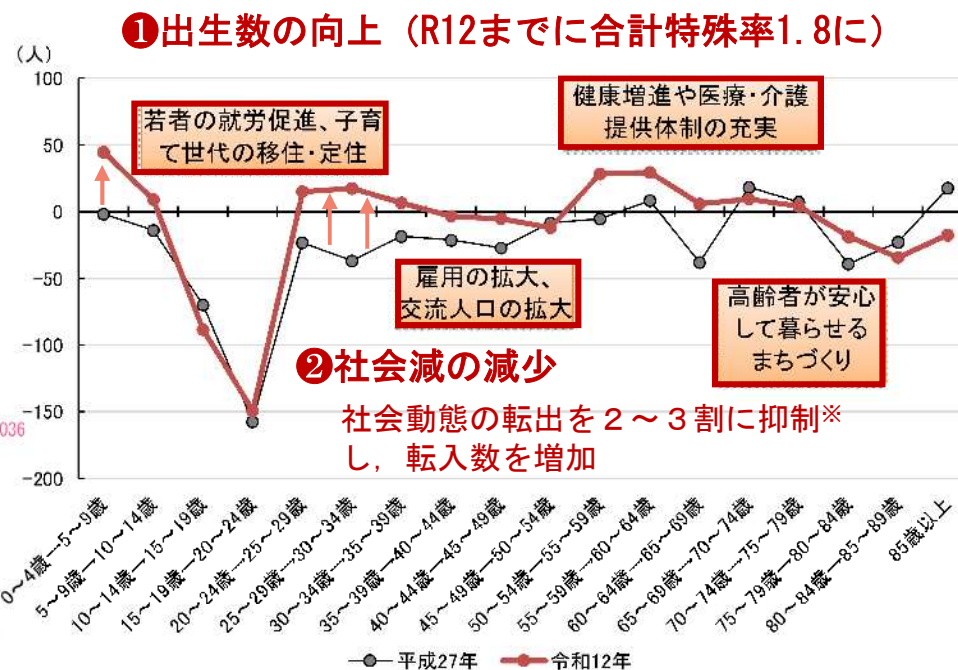
第2回策定委員会資料

- 本町では、出生率の回復と転出超過の改善により、人口の維持に継続的に取り組むこととし、令和12年の目標人口を21,000人とし、令和42年までに1万5千人を上回る将来展望を目指している。（左図）
- そのために、「町民の定住及び町外の方の移住に関する希望を実現する」とともに、「若い世代の出生、子育てに関する希望を実現する」ことをめざすべき将来の方向と考えている。（右図）

熊野町人口ビジョン（令和2年10月）



■ 将来人口の見通しと本町の将来展望



※15～19歳，20～24歳を除く

（進学等による若者の流出はやむを得ないものと考えている。）

■ 本町の将来展望人口を達成するための社会動態の傾向

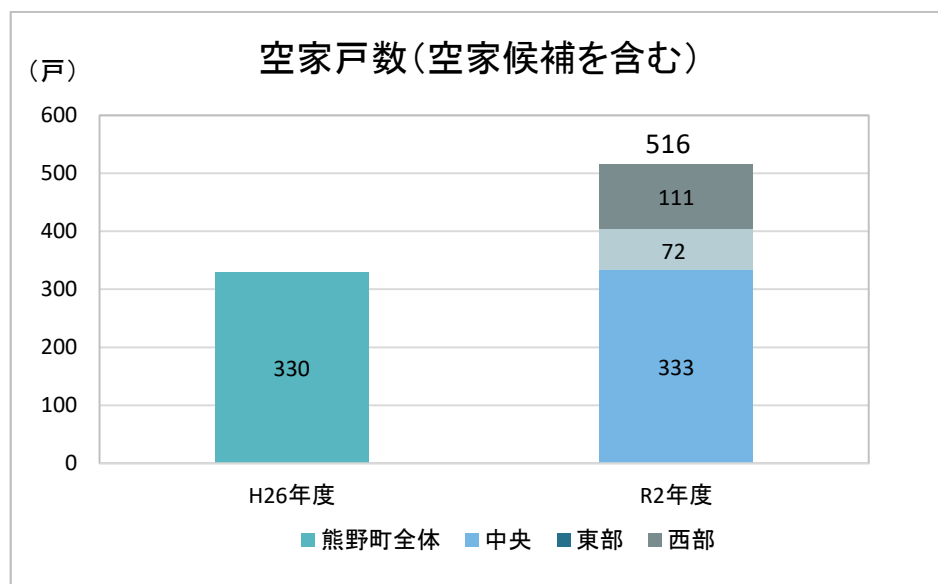
最新データ

- 住民基本台帳人口移動報告2022年結果（総務省統計局2023年1月）では、熊野町は、広島県内で廿日市市、海田町に次ぐ3番目に転入超過が多い市町。熊野道路の無料化等 → 子育て世代等の流入増加

⑨熊野町の空家の状況

第2回策定委員会，住民意見聴取会，職員ワークショップで空家に関する意見

- 空家戸数（空家候補を含む）は8年間で**大幅な増加**。
- その内，倒壊の危険や衛生上有害となるおそれのある状態の空家である『特定空家等』の候補の数は地域別にみると中央地域が最も多く，世帯数における割合は東部地域が高い。
- 今後の人口減少により空家の増加，特定空家等の増加が懸念される。



■ 空家戸数

■ 特定空家候補戸数と世帯数に占める割合 (R2年度調査)

地域	世帯数(a)	特定空家候補戸数(b)	世帯比率(b/a)
中央	6,234	57	0.91%
東	1,067	19	1.78%
西	3,295	16	0.49%